

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042・464・8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp  
 田無公民館 南町5-6-11 ☎042・461・1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
 芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042・461・9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042・421・3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
 ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042・424・3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
 保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042・421・1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

3・11から  
1年

## 被災地の公民館にも 春の芽ぶき

元西東京市公民館運営審議会委員  
日本体育大学教授  
上田幸夫



東日本大震災の日からまもなく一年。私はこの一年、被災した地域の公民館が、どんな役割を果たしているのかを追いかけてきました。

### 公民館の存在理由

地震発生直後、公民館に避難についての問い合わせが殺到し、同時に、近くの住民がほとんど集まって、さまざま、避難所としての機能を発揮しました。指定避難所であるかどうかともなく、住民にとって身近な地域センターであるため、当然、かけがえない役割が迫られていたのです。そこから安否確認、健康管理、避難者名簿の作成、さらに避難所運営日誌を作成し、避難者の様子、訪問者、支援物資などあらゆる情報を館内で取りまとめ、機動性を持った避難所運営を維持しました。

被災する公民館とその再生  
とはいえ、津波の被害を受けて、被災者を受け入れることができない公民館もありました。石巻市の公民館は2館が流失し、



大船渡市越喜来泊地区の仮設公民館の前で

2館が半壊で封鎖を余儀なくされました。

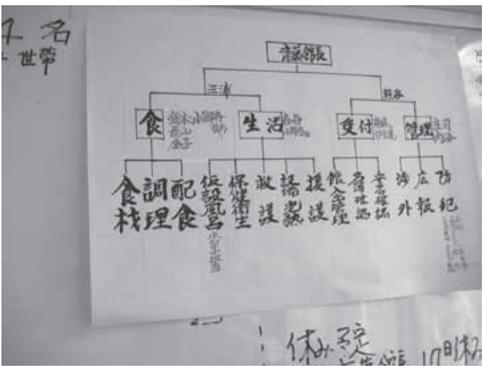
また、大船渡市の内田公民館(自治公民館)のよう、津波被害で住民が散り散りになり、地域組織の維持が困難になって、公民館の再生計画を断念せざるを得ないところに追い込まれている公民館がいくつもありました。けれども、だからこそ地域シンボル、故郷のシンボルとして公民館を再生させたいという願いを多くの住民は持っている、なんとかさそという住民の願いを実現したいという館長さんとも出会いました。同じ、大船渡市泊地区の住民は、なんとか公民館を再建したいとの願いを発信したことから、東海大学関係者の手によって、高台に仮設公民館が建設されたケースもありました。

### 交流や憩いを創出する公民館

避難所のなかでも、公民館では被災者の願いをしつかり受け止めた運営をしていました。日頃から公民館は地域の人たちが利用し、公民館の運営に参加し、公民館の内部がよく知られています。それゆえ、そういういわばコミュニティリーダーのような住民の方が率先して避難所運営にかかわっていました。避難生活が長引くなかで、公民館ならではの事業や取り組みを展開していき、たとえば、避難所の一つであった石巻市中央公民館では①「避難所だより」を発行し、②避難所の喫茶コーナーの開設にあたり支援をしていました。さらに③「避難所スクール」を開設し、講師は避難生活を続けている人たちから公募して開講しました。

### 公民館機能を生かした災害支援

公民館は、単なる集会施設とは異なって①和室、調理室、ロビーなどの空間を持っていること、②地域ごとに設置されていること、③住民組織やボランティア活動の活動場所であり、④公民館運営において住民組織やボランティア組織とのつながりを持っていること、そのうえで、⑤職員が地域への理解があることといった蓄積から、災害支援において大きな力を発揮していました。コミュニティリーダーを探し出し、地域の人々の交流を促す公民館の役割は、仮設住宅に移った人たちの支援にも生かされて、春を待つ人たちに元気を発信する取り組みが続いています。



住民の参加を得た専門部 (気仙沼市松岩公民館)

### サークル訪問

## 「香を楽しむ会」

皆さんは香道をご存知ですか?その歴史は古く、室町時代の足利義政の頃に、体系付けられた日本の伝統文化の一つです。今回は、保谷駅前公民館で月1回水曜日午前中に活動する「香を楽しむ会」を訪ね、香道の奥義を体験しました。



部屋の中に一歩入ると、そこは静寂な空気に包まれていました。部屋の中は、さぞや良い香りがすると思いきや、特に何の香りもしません。香道とは、かすかな香りがする香炉を手で包み、香りを逃がさないようにしてかぐものらしく、香りが部屋中に広がるはずがないのだと、聞いて納得しました。

これは4つの香りをきき当てるものです。かすかな香りの違いをきき分けることは、至難の業です。ただここで重要なのは、香りをきき当てるのが目的ではないということです。

ただ、香道では「匂いをかぐ」とは言わず、「香りをきく」と言うのだそうです。深く、繊細な香りをききわけることを通して、豊かな感情を育み、豊かな人格形成に寄与するのだとか。さすが茶道、華道と並び日本の三大芸道の一つだけあって奥が深いものを感じました。

師範の黒須さんは、「人によって感じ方は違います。香りから日本の古典文学まで思いをさせる人もいるでしょうし、まったく違う感じを抱く人もいます。大切なのは自分の感覚を磨き、想像力を膨らませることです」と、語ります。



「この記事がきっかけとなり仲間が増えればうれしいです」と語るのには、代表の鹿川さん。興味のある方、是非体験にお越しください。

連絡先 鹿川公子 ☎042・423・3496